様式４

令和６年度第１回
富士見市社会教育委員会議
議事録

<table>
<tr><td>日　　時</td><td colspan="6">令和６年４月２５日（木）　開会　午後７時００分
閉会　午後９時００分</td></tr>
<tr><td>場　　所</td><td colspan="6">富士見市立中央図書館　２階　視聴覚ホール</td></tr>
<tr><td rowspan="5">出 席 者</td><td rowspan="4">委　　員</td><td>本田議長</td><td>渡邉副議長</td><td>蘇武委員</td><td>内海委員</td><td>秋元委員</td></tr>
<tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>小栗委員</td><td>関野委員</td><td>戸田委員</td><td>八木橋委員</td><td>深瀬委員</td></tr>
<tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>事 務 局</td><td colspan="5">生涯学習課　主任</td></tr>
<tr><td>公 開 ・
非 公 開</td><td colspan="6">公開（傍聴者０人）</td></tr>
<tr><td>議　　題</td><td colspan="6">１　あいさつ
２　生涯学習課より報告
３　協議事項
・第３４期のテーマ決定に向けて
４　その他
・各会議への参加報告</td></tr>
</table>

議　事　内　容
1　あいさつ 2　生涯学習課より報告 ・人事異動について 3　協議事項 ・第３４期のテーマ決定に向けて 【議　長】　これまでの流れを確認する。理想の姿をまとめ、現状を確認し、課題はどこにあるのか確認してきた。前回は理想と現状を比較し、目指したいことはなにか意見をまとめ、確認した。また目指す姿になるために必要なことはなにか、どこに焦点を当てるとよいか、話し合った。目指したいことを４つの要素、対象者、関わり方、地域の捉え方、場で分解し、それぞれにおいてどのようにフォーカスするか考えていくこととした。前回は対象者と関わり方について、委員に意見を出してもらった。まとめたものを今回資料として配布している。１つ目の対象者について、子どもにフォーカスを当てるのが良いのではないかという意見が多く、全体に当てるのがよいのではないかという意見もあった。すべての世代が関わることの出来るような仕組みを築くことが必要という意見もあった。各世代にフォーカスした取り組みは既に行われており、その個々の活動をつなぐものが不足しているのではないか、という意見もあり、これらの意見を受け、子どもをきっかけとし、全員が関われるような仕組みづくり、とまとめた。このまとめ方について、なにか意見はあるか。 【委　員】　特になし。 【議　長】　２つ目、関わり方について。まずはハードルの低さが挙げられた。また継続性、続けることが大事だという意見もあった。連続性、連携性も挙げられており、イベントや各団体の活動がつながっていくといいのではないかという意見があった。なにか１つに興味を持てば、それに関連したイベント等の情報が入ってきて興味が広がるような情報発信がされていたり、情報が体系的に示されていたりするといいのではないかという意見もあった。また団体同士、活動同士をつなげるコーディネーター的存在も必要だという意見があった。この関わり方については、様々な意見が出ており、結局は全部が大事だ、ということになるかと思う。何か意見はあるか。 【委　員】　特になし。 【議　長】　それでは続いて、地域と場について意見を聞いていきたい。まずは地域について、富士見市全体を見るのか、学校区で見るのか、もっと小さな単位で見るのか。どの程度の単位で活動に参加することを

イメージするのか、意見を聞いていければと思う。

【委　員】　地域の中で小学生と中学生が一緒にボランティアに参加できないか、考えている。今までは専ら中学生が地域のみなさんにご協力いただき、令和５年度は２５種類ものボランティアに参加させていただいた。今後はそこに、小学生も参加していけないか。例えば勝瀬 de 縁日やふじみ野文化祭など、様々なサークルや団体の方が参加している。小学生だと保護者も一緒に参加することが多いので、保護者に団体や活動を知ってもらう機会、接点を持つ機会とすることができる。小学生と中学生を一緒に、と考えると、保護者を巻き込みやすくなるのではないか。ただし、子どもを地域に巻き込む場合、受け入れる側も周到な準備が必要。行政からも声がかかるが、行政は子どもの巻き込み方、仕事の与え方があまり上手ではないと感じる。子ども達はやる気を持って参加するものの、暇な時間があると気持ちも途切れてしまう。学校に相談してもらって構わないので、子ども達の力を最大限に発揮できる場づくりをしてほしい。地域単位でのつながりもあると思うが、行政が号令をかけたものについては市全体の取組みになると思う。より多くの団体と子ども達をつなげることができ、多くの保護者に知ってもらうチャンスが生まれるのではないか。

【議　長】　子どもを中心にすることで保護者も巻き込むきっかけをつくり、輪を広げていくことができる。既に実践されている取り組みもあるということだった。

【委　員】　地域のみなさんがとても協力的で、子ども達の活動の場をたくさん設けて頂いている。子ども達も喜んで参加している。保護者の方にも積極的に広報するようにしており、中には活動を見に来る保護者の方もいらっしゃる。また子どもが家に帰って話すことがあれば、保護者も気持ちが向く。興味を持ってもらうための一つのチャンスとなるのではないか。

【議　長】　学校区という地域もあるし、市全体という地域もあるというご意見だった。

【委　員】　地域性や普段からの人のつながりもある。公民館区が満遍なく声をかけやすい地域の単位ではないだろうか。公民館に人が集まるので、そこで交流しながらつながるということもできるのではないか。停滞している現状があるかもしれないが、育成会やＰＴＡの活動は重要で、そこを盛り上げていけないか。もちろん働いている人が多いので、無理なことは無理だと理解している。ただ子どもたちにとってはとても大事なこと。育成会やＰＴＡの活動を通して、地域とつながるきっかけになる。例えば南畑地域だと、春に地区社会福祉協議会主催でゴミ拾いを行うが、育成会の人が家族で参加してくれる。中学校や高校に声をかけると、さらに中学生や高校生も参加してくれる。自分たちの地域を知る機会、地域をよくするという気持ちを育てる機会になる。家族で参加するきっかけとなるものであり、育成会やＰＴＡという単位は大事なものだと思う。また公民館で活動

していると、他の団体やイベントとつながることができる。公民館という拠点がある公民館区は、交流しやすい単位ではないかと考えている。

【議　長】　確かに、拠点があるということは大切なことかもしれない。公民館区で既に各団体が活動している。そこで生まれるネットワークをもっと活用できるとよい。

【委　員】　公民館という地域の拠点があってそこに人が集まって、ということができる地域であればそれでいいと思うが、自分にはあまり馴染みがない。例えば駅のコンコースや商業施設など、気軽に行けて、気軽に参加できるようなイベントなどを増やしていけるといいのではないか。地域という単位ではなく、人が集まりやすい場所でなにかをする、という考えがあってもいいのではないか。

【委　員】　地域性が大きいと思う。南畑は公民館か学校しか集まるところがない。

【委　員】　委員から中学生によるボランティアの話があった。私が関係している活動でも、中学生のみなさんにボランティアとして参加してもらった。最初はおずおずとした様子だったが、次第にコツをつかんだようで、非常に積極的に参加してくれた。最初と最後で子ども達の様子が変わるのを見ると、非常に意義のあることだと思う。地域の捉え方については、あまり限定できず、色々な場所、色々なレベルにきっかけがあるのではないか。公民館という意見も出たが、他にもありとあらゆるところにきっかけがあって、それをいかに掘り起こすか、活用するか、ということが大事ではないかと感じた。

【議　長】　地域という単位は考えなくてもいいのではないかという意見だった。確かに、地域という単位を限定するのは難しいかもしれない。

【委　員】　ハードルの低さに関わってくるかもしれない。例えば駅のコンコースを使いたい、となっても、ではどうやったら借りられるのかが分からない。色々な人が集まれそうな場所が、どうやったら使えるのか等の情報が体系化されていたり、共有されていたりすることが大事になってくるのではないか。ありとあらゆる場所が使える街になると楽しくおもしろいのではないか。

【委　員】　小学校区や中学校区、公民館区というまとまりがあるのは分かる。しかし、なにかをしようと思っても、小学校の体育館などは既に学校開放団体の予約が入っており使えない。公民館も、いつもなにかしらの団体が使用しており、新しく使おうとするとハードルがあるし、また借りるためには手間がかかる。地域の捉え方という話から逸れてしまうが、場の確保の大変さがあると感じている。

【議　長】　小学校区や中学校区、公民館区など、それぞれのまとまりは既にある。それを目的用途に応じて機能させていくことができればいいのかもしれない。

【委　員】　学校区でのまとまり、公民館区でのまとまり、それぞれの中では既にある程度できている部分だと思う。これからは小学校、中学校の連携が大切になると思うし、そこに地域の町会や活動、団体が入っ

ていくということも大切だと思う。しかし、そこに入れない人たちもいる、ということを忘れてはならない。公民館区で活動していなければ、公民館のイベントは分からない。興味も持たない。子どもがいない世帯は、学校を基盤とした関わりには入っていけない。そういった壁、括りを取り払ったものが必要なのではないか。すべての方に子どもがいるわけではないし、高齢になると子育てのことは忘れてしまっていることもある。年齢や属性にかかわらず参加できるものがあるといいのではないか。また公民館に対して行きにくいな、と感じている人も一定数いるのではないか。私自身もそうだが、興味はあっても一歩を踏み出しにくい。

【委　員】　小学生のボランティアについて話があったが、小学生の親がつながる機会というのは確かに大切だと感じた。ＰＴＡも変わってきており、ＰＴＡの本部で活動していても分からないことは多い。私はＰＴＡから離れたが、未だに他校のＰＴＡ役員の方から相談が来る。親がつながるというのはとても大事なこと。しかし機会がないのだと思う。公民館や交流センターの活用というのは、一つの方法として有効だと思う。また気軽に行ける場、という話にはとても共感した。何かがあるからそこに行く、という訳ではなく、なにかのついでに入れる空間があってもいいのではないかと感じた。私が住んでいる地域は市境に近く、富士見市の公民館に行くよりも、隣町の公共施設の方が近い。逆に考えると、例えば地域にある公園でお祭りを開催すると、市外の方も参加してくれる。地域で縛り過ぎず、気軽に参加できるということが大事なのかもしれない。

【委　員】　入口のハードルを下げるという点では、委員からお話があったように、広く遍く色々な形のものがある状態がいいのだと思う。人それぞれにアプローチしやすいものは違う。また、知るということが大事なのだと考えている。私も以前は公民館に対して時代遅れというイメージを持っていた。振り返って考えると、それは公民館の実態を知らなかったため、勝手な印象を持っていたのだと思う。しかし公民館には充実した活動があると知り、決して時代遅れのものではないと気が付いた。よく知らないままイメージで距離を置いてしまう人は少なくないのではないか。知ってもらうための積極的な姿勢が必要ではないか。また委員の話を聞いていて気を付けねばと感じたが、なにか活動していく中で、関わる人とそれ以外の人の間に、必ず線が引かれてしまう。活動している側としては、壁や線を築いているつもりはないと思うが、そこに隔たりを感じてしまう人はいる。どうすれば線が引かれないような活動にできるか、そのためにはどうすればよいのか、考えていってもいいのかもしれない。

【議　長】　難しい問題。楽しそうに活動していると、入りにくさを感じて引いてしまう人はいる。未知のものには近寄りにくさを感じる。ハードルを下げる、知ってもらうことは確かに必要なこと。

【委　員】　地域の捉え方は難しい。立場によっても見え方は変わる。大学生にとっての地域と、小学生にとっての地域は異なる。公民館の話も出

ていたが、公民館は色々な施設の中で、一番異年齢集団が交流しやすい場であり、その点で大切な施設だと考えている。異年齢の人たちが集まって初めて地域性が生まれる。同じ世代だけ集まってきても、似たような価値観を持っており、話し合う、異なる価値観を知るということがなくなる。異なる年齢層の人が集まるからこそ、会話などのやり取りが何回も発生する。異年齢集団を集めて話し合う、そういう機会を作れるとよいのではないか。教育の分野でも、イエナプランという考え方で知られている。

【議　長】　違う人同士が集まるからこそ学びがあるということか。

【委　員】　相手に合わせたり、多面的な価値観が得られたりするので、異年齢集団が集まる場所として、公民館は活用のしがいがあると思う。

【委　員】　公民館を使って子ども食堂をやっているが、みんなで楽しく美味しいものを食べよう、ということで活動している。小さい子を連れてくる方もいるし、ご高齢の方もいる。色々な人が集まっていて、手伝ってくれる人もいる。私はパソコンなど不得意で、申込方法などは窓口に直接としていたが、若い人が二次元コードの利用を提案してくれた。色々な人が集まることで活動が広がる。公民館は異年齢の人をつなげることができる場であり、大切な場所。公民館は特定の人が使う場所ではなく、すべての人に開かれている場所。地域をよくするための方法など意見が出れば実践し、自分たちでいい地域を作ろうという気持ちを持っている。公民館は、楽しませてくださいというお客様感覚ではなく、どうやったらみんなで楽しくできるか、ということを考え実践する場所。

【議　長】　公民館の大切さは理解している。いかに知ってもらうか、伝えるか、考えていく必要があるのだと思う。

【委　員】　公民館での活動は公民館だよりに載るので、地域全体に情報が届く。

【委　員】　地域によるのだと思う。私は水谷公民館区だが、出張所はよく利用するものの、公民館の利用はハードルが高い。高齢者の方達が、自分たちだけのサークル活動をしている、というイメージがある。自分がＰＴＡの本部役員になり、必要に駆られて公民館を使うようになってから初めて他の事にも公民館を利用するようになった。また、水谷公民館でもお祭りを年に１回開催しているが、それを知ったのも最近。委員のお話を聞いていると、南畑では公民館がとてもいい形で活用されているのだと思う。入間地区社会教育協議会の社会教育委員部会で他の自治体の方の話を聞くが、坂戸などは公民館がすべてコミュニティセンターに変わったとのことだった。

【議　長】　公民館とコミュニティセンターの違いは何か。

【委　員】　公民館は社会教育法に基づき設置されている。行うべき事業も社会教育法で決められている。コミュニティセンターは社会教育法に基づいているわけではない。

【事務局】　委員のお話のとおり、設置根拠が異なる。公民館もコミュニティセンターも公共施設ではあるが、公民館は社会教育法を基に設置された社会教育施設。コミュニティセンターは社会教育施設ではなく、

市民の相互交流などを目的に設置されている。

【委　員】　今の公民館は、どこの自治体も施設の貸し出しが主になっており、地域に関係する方々が集まって活動の拠点として利用している。なかなか現代にマッチしていない部分があり、コミュニティセンターや交流センターに変わっていっているのが現状ではないか。

【委　員】　お金の徴収が難しいと聞いたことがあるが、それはどういうことか。

【事務局】　営利を目的とした事業は行ってはならないと決められている。

【委　員】　消滅可能性自治体のニュースを見た。２０１４年、東京２３区で唯一候補に挙げられた豊島区が、今回は入っていなかった。ちょうど青木純さんの「パブリックライフ」という本を読んでおり、豊島区の南池袋公園が思い浮かんだ。青木純さんは南池袋公園をリノベーションした方で、公共性を最大限生かして、その地域の人達だけでなく、その場を訪れた様々な人達に使ってもらおうと考えて公園づくりをしたとのこと。これは地域を時間と場所とを共有する人という単位で見るということ。この捉え方は大切なのではないか。市制施行５０周年事業としてクラフトビアフェスタを開催したが、キラリ☆ふじみであのようなイベントができるとは思っていなかった。小さいお子さんからご高齢の方まで、みんな楽しそうで、こういうイベントが開催されるのを待っていた、という意見も出た。時間軸を一緒に過ごす人、という考え方だと、色々な属性の方が一緒にいられるのではないか。

【委　員】　キラリ☆ふじみに芸術監督の方がいるが、その方の市民の捉え方がおもしろい。富士見市民だけでなく、他の自治体の市民も入る。だからキラリ☆ふじみは誰もが使える施設になっている。

【議　長】　今あるものをうまく活用し、ないものは作り、カバーできていない人をカバーしていこう、というお話にまとまるかと思う。そのためには色々な切り口があるとよい。色々な地域のあり方がある。だからこそ地域なんてないという結論になるかと思う。では続いて場づくりについて。

【委　員】　物理的な場があって、そこに参加するという形の話が出ていた。そこが制約になっている人も多いのではないか。オンラインの活用も一つの手ではないか。コロナ禍を乗り越えて、やはりオンラインより対面だという思いは実感としてあるが、一方でオンラインだからこそ、色々なことに参加できた、という人も少なくないのではないか。これからの場づくりの一つとして、オンラインも考えていく必要はあるのではないか。

【議　長】　オンラインやメタバースもハードルを下げる一つの手段だと思う。

【委　員】　場を作るための場づくりがあると良いのではないか。場を作りたいと考えている人が集まる場。気持ちがある人が集まって、みんなでアイデアを出し合って、という場があると個人的には嬉しいと感じる。

【議　長】　これまでも中間支援やサポートの話が出ていた。

【委　員】　あらゆる人たちの琴線に触れるような機会を作り出すのは、おもし

ろいだろうが難しいと感じた。いかに学び合いの場を作り、いかに地域活性化につなげていくか。入口のハードルをなるべく低くし、色々な人に気付いてもらえるよう、その方法を考えていく必要があると感じた。

【委　員】　地域も場も、基本的には同じようなものだと思う。設定するのはとても難しい。これまでの経験から、偶然が大半だったように思う。もちろん失敗もあるが、あまり仕掛け過ぎず、偶然の出会いなどを大事にしたい。難しいことではあるが、振り返ってみると偶然や行き当たりばったりの方がおもしろかったように思う。偶然という要素もあってもいいのではないか。

【委　員】　サークルや団体の活動は、外から見えないことも多い。活動内容などを例えば動画などで伝えられたらいいのではないか。練習している場を見てもらうなど、オープンにできる場があるといいのかもしれない。キラリ☆ふじみでランチタイムコンサートを開催しているが、毎回７０～８０人くらい集まる。発表者にとっては見せる場だし、観客からすると鑑賞する場。両者がつながる場にできることは素敵だと思った。知ってもらえれば、他の活動につなげていくことができる。

【委　員】　子どもフェスティバルに関わっていたことがある。富士見市全体を対象としていたので、アプローチする先も市全体だった。公民館のお祭り等だと、その地域が対象となる。場の規模を大きくすればするほど、自分たちの負担も大きくなる。負担が大きいと継続するのも難しくなる。子どもフェスティバルは行政も関わっているからなんとか続いている部分があると思う。それをボランティアだけでやっていこうとすると、厳しくなっていく。なるべく手間をかけないで、様々なアイデアを出して、新しいメンバーが新しい発想を持てるような仕組みを築くことができれば。

【議　長】　負担感のない形で継続できることを、ということか。

【委　員】　特定の人に負担がかかると、次を引き継ぐ人が大変になる。活動から離れられなくなってしまう。

【議　長】　無理なく長く続けることも大切だという観点だった。

【委　員】　大きなイベントになればなるほど、役割分担は細分化され、やりたい訳では決してないけれど、役割として決まっているのでやらなければならない、ということがある。そうなると、大変、つまらない、と感じてしまう人が出てくる。そうなると、もうやりたくない、と離れていってしまう人もおり、残念に感じる。大変でも楽しかった、来年もまたやりたいね、と思える方法を考えられないか。例えばお祭りを開催する時には色々な方にご協力いただくが、やはり小さな子どもがいるお母さんたちには負担が大きいと気付いた。それからは規模を小さくして、やりたいことをやってもらうようにした。やりたいことであれば主体的に楽しく活動できる。活動の中において主体性はやはり大切なのだと感じた。

【委　員】　学び続けられるということが必要なのではないか。学び続けるため

には、そこに楽しさが必要。しかし、ただ楽しいだけでなく、その奥に学びが必要なのだと思う。社会教育とは、学び、そしてそこから何かを得られることではないだろうか。

【委　員】　異年齢が集まるだけでもそこで自然と学びが得られる。異年齢で集まることは重要。

【委　員】　「つらたのしい」という言葉がある。本の中で紹介されていた言葉で、筆者の方が子ども達と関わっていく中で、楽しいんだけど辛い、辛いんだけど楽しい、そういう状況で子ども達から「つらたのしい」という言葉が出てきたそう。先ほど委員が仰っていたことと通じるものがあると思った。

【委　員】　辛さを乗り越えた達成感が喜びに、そして楽しいという気持ちになっていくのだと思う。

【委　員】　主体的にやっているからこそ楽しく、辛く、でも楽しいのだと思う。

【委　員】　「つらたのしい」の考え方はおもしろいと思った。問題解決型学習というものがあり、子ども達を切実にさせるというもの。切実感を持たせると、最後まで学習が続く。日本では昭和２２年頃に行われていた。切実な問題を解決する、学ぶことの本質はそこにあるのではないか。また文化をつくることの難しさを感じている。歴史的に考えると、大きな街道沿いか川沿いから文化が発生する。色々な選択肢があって、気軽に立ち寄り、見ることができる、それが大切なのではないか。様々な選択肢がある中を行ったり来たりすることで、交流が生まれていくものだと思う。色々なものを気軽に見られるような仕組みやきっかけができたらおもしろいのではないか。

【議　長】　今日も様々な意見が出た。今後の流れについて確認しておく。今日は地域と場づくりについて各委員から意見を出してもらった。今回配付した資料のように意見をまとめ、目指すところを確認する。そしてその目指すことに向けてどう実現するのか、検討していく。次回は今日出された意見をまとめて、確認する。その上で、どのような手を打つのか検討していきたい。みなさんのご意見を伺っていると、多様をいかに実現するのか、という話になるのかと思う。総論的にまとめるのか、どこか一か所を深掘りしていくのか、第３４期としての方向性を決めていきたい。

４　その他

・各会議への参加報告

【委　員】　４月１８日に入間地区社会教育協議会第１回社会教育委員部会があり、令和６・７年は富士見市が入間地区社会教育協議会の事務局を担当すると話があった。また役員として、社会教育委員部会の部会長と会計についても、富士見市の社会教育委員で担当することになった。細かいことはまだ決まっていないが、１０月には社会教育委員部会研修会が開催される。テーマはこれから決めていくが、公民

館をキーワードにしてはどうかと事務局と話している。また富士見市が事務局ということで、市内にある資源を活用できたらと考えている。みなさんにご協力いただくこともあると思うので、よろしくお願いしたい。